

倉内 智男（くらうち・ともお）

1、プロフィール

詩人。詩誌「地球」・「メロス」同人。詩誌「異神」・地域誌「ながめ」発行人。詩集『座有知』で第三回青森県詩人連盟賞受賞。日本詩人クラブ会員、日本現代詩歌文学館評議員。

<生没>

1946(昭和21)年8月29日～2010(平成22)年11月23日

<代表作>

詩集『異神』・『座有知』・『途上』・『中世の里発信』・『倉内智男詩集』・『異神と全宇宙の結婚』

<青森との関わり>

浪岡町に生まれる。弘前高校卒業。詩誌「異神」・地域誌「ながめ」発行人。詩誌「地球」・「めろす」同人。

2、作家解説

倉内智男は昭和21年8月29日、南津軽郡浪岡町(現青森市)に生まれる。浪岡町立浪岡小学校、弘前大学付属中学校、弘前高校卒業。サッカー部のゴールキーパーであった。弘前時代の6年間、佐藤初女宅に下宿。初めて文学に接したのが、弘前高校2年2組の内海康也(詩人)の国語の授業であった。文芸評論家の三浦雅士や登山家で作家の根深誠は同級生である。三浦らと一緒に出していた「三文詩」に一編の詩を掲載する。

昭和40年に早稲田大学文学部入学して半年在籍、翌年に法学部入学(8年在籍後に中退)。司法試験受験サークルと探検部に入会するが、退会。安保前夜の44年全学連に参加し、早稲田詩人会に入会して一色真理と出会う。二人で詩人の鮎川信夫を訪れる。そして倉内が発行人、一色が編集人、ゲストに鮎川の3篇で詩誌「異神」を44年3月に創刊した。その後、芳賀清一らが参加する。同人

の一色真理・本多寿がH氏賞を受賞している。57年4月32号で休刊。45年に帰郷。47年1月、詩誌「行丘」を創刊。同年、幼友達の阿部ユリ子と結婚。50年に青森市三内に転居。56年に三内孔房、平成2年に中庸書店を興す。7年、郷里の浪岡町に転居。三内時代に「聖徳太子・エルサレム・鮎川信夫・国際(世界)連邦を考える会」の結成を意図していた。そして元町長の平野良一や考古学者である工藤清泰らの協力で地域誌「なめが」を8年11月に創刊。13年、エスペラント誌「Chielarko」を創刊。

詩集は昭和50年8月に『異神』、56年3月23日に『座有知』(三内孔房)、平成3年11月23日に『途上』(中庸書店)、5年1月2日に『中世の里発信』(中庸書店)、12年3月23日に『倉内智男詩集』(水星舎)、平成21年5月23日に『異神と全宇宙の結婚』を発行。詩誌「地球」・「銀漢」・「メロス」同人。浪岡詩歌懇話会・弘前ペンクラブ・青森県詩人連盟・日本詩人クラブ会員、日本現代詩歌文学館評議員

平成22年11月23日、行年65歳にて永眠。

3、資料紹介

○『座有知』

図書

1981(昭和56)年3月23日

210mm×150mm

人はいかに生きるべきかではなく、自分はどう生きるかなのだ、と実存を問うている。＜宇宙の始原において只状態だけがひっそりと置かれていた＞という真実を言語化しようとしている。第3回青森県詩人連盟賞受賞。